

12月の予定

第362号

教会委員会	12月13日
典礼委員会	12月6日
共同回心式	12月12日 13時半
主の降誕深夜のミサ	12月24日 19時
主の降誕日中のミサ	12月25日 10時



中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成21年12月6日



三部門の設置について話し合いました

主任司祭 小林 陽一



2007年4月8日発行の司教教書「共同宣教司牧に向けた、新たな宣教司牧評議会と地区共同宣教司牧委員会」には、三部門の設置について記されております。三部門とは何か。

梅村司教様が横浜教区長として就任されて以来、横浜教区では、交わりとしての教会を目指すことが知らされ、共同宣教司牧への協力が求められております。そして、前記の司教教書が発表されて後、横浜教区宣教司牧評議会は、共同司牧に向けた新たな宣教司牧評議会に変わりました。各地区の地区福音宣教委員会は地区共同宣教司牧委員会に変わりました。

そして、地区の中で、今回は、2009年5月23日～24日迄開催された横浜教区宣教司牧評議会主催の第一回教区懇談会、「教区長の時間」の講話（プリント参照）発表以後、三部門に対応する小教区の組織の必要（プリント・9頁最後の行）についても示されました。

2007年の司教教書の5頁に、「しかし、たとえどのような状況におかれていたとしても、私たちの教会がキリストの教会としてあり続けるためには、三つの欠かせない要素があります。すなわち、祈りがささげられ、信仰が伝えられ、愛の証しがなされていることです。小教区としても、地区としても、それぞれ自らの力によって、信仰を伝え、祈りをささげ、人々に愛をそそいでいけるような共同体に成長することが期待されているのです。そこで、これらの課題に応えることができるよう、各地区に三つの部門を設けてください。

- すなわち、①祈る力を育てる部門
②信仰を伝える力を育てる部門
③神の愛を証しする力を育てる部門 です。

各部門をもって、自らの力で祈ることができる共同体づくり、自らの力で信仰を伝えることができる共同体づくり、自らの力で神の愛を証しすることができる共同体づくりに努めてください。」と記されています。これが三部門です。

私たちの中和田教会でも、少しずつ、祈る力を自分で育てるような工夫がなされております。祈りの大切さが理解され、集会の始めと終わりは祈りがかなめとなりました。

信仰を伝える力を育てるために、初聖体クラスのすすめ方や堅信クラスのすすめ方も、毎年新しいやり方が見られるようになりました。これまでの中和田教会のやり方を続けながら、司教教書、司牧書簡「横浜教区における改革の基本方針」、司牧書簡「交わりとしての教会をめざして」などをグループで読んで、前記の三部門にかかわる取り組み、すなわち、祈り、信仰を伝え、神の愛を証しすることについて、新しくやってみたい事、気づいた事を話し合っ、グループで実行いたしましょう。

第一回教区懇談会「教区長の時間」(9頁まで)のプリントも、三部門について、共同宣教司牧について、交わりとしての教会を目指してについて、理解を深めるために大きな助けとなります。難しい所は解る範囲内で聞き、要旨を理解して、自分のグループで根気よく読み合わせをして（一回に1頁くらい読むだけでもよいと思います）、話し合ひましょう。共同体づくりのための、グループでの学びと話し合ひです。一ヶ月に一回集まるグループでも、この「教区長の時間」と題したプリントを取り上げれば、よいテキストになります。ぜひ話し合ひをいたしましょう。



「交わりの教会」のお話合い

小野 雅彦

第5地区共同宣教司牧委員会は2007年から3年間に亘り、「交わりの教会をめざして」と題した司教教書を軸に、その具現化に向けてお話合いを重ねて来ました。

「交わりの教会をめざして」の主旨や梅村司教様が感じておられる課題については、過日お配りした「教区長の時間」に詳述されておりますが、今までの共同宣教司牧委員会や分科会での“司祭—修道者—信徒のお話合い”の区切りとして、このお話合いに参加して感じたことを、一信徒の視点から纏めてみたいと思います。

[1] 今、私たち信徒は何を問われているのか？

私たちは、教書や書簡などを通していろいろなことを同時に問われていると感じて、当惑することがあると思います。例えば、

- ①「祈る」「伝える」「証しする」の3つの側面から宣教司牧を深める、
- ② 司祭—修道者—信徒の“三位一体”で小教区を運営していく（司祭中心主義の克服）、
- ③ 小教区で閉じることなく、「交わりの輪」を拡げていく（小教区中心主義の克服）、
- ④ 司祭数減少への対応、...

などなど、一見全く異なる命題が満載のように感じられます。

しかしながら少し考えると、これらは全てその根源を、(小教区、地区、教区を問わず)『自らの力によって、信仰を伝え、祈りをささげ、人々に愛を注いでいける共同体に成長する』という、私たちが自ら体現すべき「共通目標」に集約出来ると思います。

言い換えれば、上に挙げた①～④は、私たちがこの共通目標に向かって行動する過程で現れる事象、または結果と考えることが出来ると思います。

より具体的には、①は私たちの信仰を表現する3つの明示的な切り口であり、②、③、④は(もし私たちが目標に向かって一体となって行動すれば)自然に達成出来る結果だと思えます。

しかし、そうは言っても現実的な側面を考えれば、いろいろ個別に対処せねばならない課題は山積みであり、理想論だけ振りかざしても前に進まないことも自明です。

ここで申し上げたいことは、いろいろな問題に遭遇すると、とかく本筋を見失いがちですが、どんな場合でも本来の姿や目標を明快に認識してそれを忘れることなく前に進みたいということです。

それからもう一つ...

私たち信徒は、もはや「共同体が自分の為は何をしてくれるのか」ではなく、今や逆に「自分が共同体の為に何が出来るか」を(自らの信仰に照らして)真剣に考えて行動することが問われている時代になっていると思えます。

[2] 私たちに期待されている行動とは？

① 祈る、伝える、証しする

この課題については、既に教書をお読みになって、いろいろお話合いをされた方々も多いと思います。ここでは、共同宣教司牧委員会のお話合いのベース

となったいくつかのフレーズをご紹介しますに留めます。

[祈る]:

- ・教会や家庭に「祈り」の雰囲気はあるのか？
- ・ミサ/典礼をさらに生き生きとしたものにしていくには？

[伝える]:

- ・何を伝える？「キリスト」を伝える
- ・誰に伝える？教会の外の人たち、次世代を担う人たち、そして私たち自身に

[証しする]:

- ・“福音的”とは何か？何をすればよいのか？
- ・「奉仕を受ける側」と「奉仕する側」の双方が成長しなければならない(お金や物資を送ればそれでよしとするのは誤り)

② 司祭—修道者—信徒による小教区運営(司祭中心主義の克服)

この考え方は、第2バチカン公会議以降に強く打ち出されて来たと聞いております。

司祭中心主義ですと、私たち信徒はどうしても行動が「受動的」になります。もとより「キリストの代理者」として司祭団が持つておられる権能は信徒を超越していることは言うまでもありませんが、共同体の運営に於いては私たち信徒が一層深く参画出来る部分は多くあります。単に司祭の指示を待つということではなく、自立的に私たち信徒が小教区の運営に「能動的」に関わることが求められていると思えます。

③「交わり」の拡大(小教区中心主義の克服)

交わりの輪の拡大については、幸いにして第5地区には成功事例があります。

- ・教会学校の活動では、宣教や教会学校関係の皆様のご尽力で、小教区を超えて地区全体としての活動が活発に行われて盛り上がっていますし、
- ・湘南キリスト教セミナーでは、地区の全7教会のバックアップのもとに運営していく体制が確立しています。

他にもいろいろ例があると思えますが、これからも宣教のみならず、典礼や福祉など幅広い分野で、横の繋がりを一歩一歩深めていくことが強く求められています。

④ 司祭数減少に対する対応

私たちが帰属する第5地区でも近い将来、「全小教区に主任司祭が常駐して当たり前」という体制は維持出来なくなることははっきりしており、いかに対処するかは、まさに私たち信徒の行動にかかっています。このことは、前述の②、③で解決していかねばならない最も具体的な例でもあります。

小教区単独では決して解決出来ない課題ですし、小教区を超えて、近隣の小教区と協力や連携が必須の課題です。また、修道院のご協力を仰がねばならないことも多く出ると思われます。（修道院の方でも、小教区にどのような貢献が出来るのか、現在いろいろ検討が進んでいます）

主日ミサについても、既に他の地区では、月に一度は集会祭儀で代替するなどの具体的な行動が始まっています。

[3] 2010年に向けて

第5地区は、小教区を〔藤沢、片瀬〕〔大船、鍛冶ヶ谷〕〔戸塚、原宿、中和田〕の3ブロックに分け、修道院も参加して、それぞれどのような協力、連携が出来るか、具体的な検討が2010年から始まると思います。まずは、

1. 典礼、宣教、福祉、財務、総務（事務）のように、どの教会でも運営の基盤になっている部、グルー

プの横の交流の強化、並びにこれら機能のブロック内一元化の可能性検討、

2. 典礼、宣教、福祉の活動を発展的に拡大して、それぞれを高次の〔祈る〕〔伝える〕〔証しする〕力を育てる部門という役割に移行するにはどうすればよいか、

3. (将来の) 主任司祭の非常駐化に伴う協力体制の構築検討（主日以外の教会管理など含め）

等がお話合いのテーマになると思われませんが、これらは信徒全員が考えていかねばならない課題ですし、その根幹は前述の「共通目標」、とくに「祈り」です。

11月7日に行われた湘南キリスト教セミナーで、中谷功神父様が「究極の祈り」、即ち「その人の存在そのものが祈り」に触れておられましたが、この「その人」を「中和田教会」に置き換えさせて頂いて、

「中和田教会の存在そのものが祈り」という形になりたいものと念じております。



要理学校だより

9月～11月活動報告

9月27日 谷 理恵、岩瀬 洋子

女子パウロ会の方からいただいた絵本を子供たちと読みました。特にイエスさまの子供の頃のこと書かれた部分に注目し、自分たちとの共通点（イエス様もマリアさまに叱られたことがあるということ）について話し合いました。どのようなときにお母さんに叱られるか、また叱られたときはどうすればよいか等、様々な意見が出され、反省する良い機会になったと思います。それから初聖体ミサで歌う新しい歌を練習しました。皆、一生懸命歌いました。

10月18日 石井 洋子

10月はマリア様の月なので、ロザリオについてお話ししました。その後、実際に子供達がロザリオを使って順番にお祈りをしました。はじめは慣れないせいか、にやにやして恥ずかしそうに祈っていましたが、そのうちみんな、集中して祈ることができました。ロザリオの祈りの大切さをみんなが分かち合うことができました。



11月15日 美底 真理安

みんなで一つのテーブルを囲み、ローソクを灯してパンを置き、真ん中の椅子はイエスさまの席に…みんなはイエスさまの弟子になってみました。（ペトロ、ヨハネ、ヤコブ・・・etc）「最後の晩餐を知ってるかな？来週、初聖体を受けるお友達も、イエスさまの食卓と一緒に囲む仲間になるんだね」（ウンウン、お楽しみ(^_^) 良い初聖体が迎えられるように、心を込めてお祈りしました。

その後、初聖体パーティーの飾り付けをみんなでした。



リーダー研修会に参加して

谷 理恵

8月30日にリーダー研修会に参加させて頂きました。ここに紹介させていただきます。

午前中にはリトミック（音楽にあわせて体を動かす）でした。

テンポの良い曲には元気にステップをふみ、ゆっくりな曲にはゆっくりと手を揺らしたり、スカーフを投げたり、はじめは少し恥ずかしいのですがだんだん楽しくなってきた、かもしれません。

元気の余った子供達も、これならエネルギーを発散できそうです。

まず歌詞を読み、それから音楽にあわせて体を動かして次にその歌を歌ってみると、曲が体にしみ込んだのか覚えやすいように感じました。

午後からは詩篇についてでした。

長い歌詞を、いつも息の続く限り歌い、息が足りずに変なところで息継ぎ、となってしまうがちです。息が足りなくなりそうだったら、歌詞の意味の区切れるところ（句読点のところ）で、早めに息継ぎすると良いとのお話は、目から鱗でした。聞かせて頂いたCDもプロの人が歌うとこんな風に歌えるのか！と驚きの内容でした。

各教会のリーダーがたが、子供達と一緒に過ごしているのが楽しくて！とっておられるのが印象的でした。充実した一日でした。



初聖体ミサとお祝いのパーティー





祭服を購入しましたのでご紹介します

典礼グループ

今年の葬儀時に、小林神父様は「紫色のカズラ」をお召しになりました。典礼グループで神父様にお尋ねすると「中和田教会には白いカズラが無い」と言われました。

今まで各神父様は、アルバの上に白いストラを掛け司式されていまして、気が付きませんでした。

早速、典礼グループでは委員会のご承認をいただき「白いカズラ」を購入いたしましたので、皆様にご紹介いたします。

祭服の正装については、アミクトゥス（アルバを着る前に首周りを覆う肩布）に、アルバ（白衣）を着て、カズラ（一番上に着る首もとから全身を覆う、袖の無い祭服）の上に、白いストラ（叙階されたしるしとして、両肩から胸の前に下げる）を掛けられます。



【写真-1】



【写真-2】



【写真-3】

☆写真は最近中和田で購入した司祭祭服

☞【写真-1】は、11月に購入したカズラと白いストラです。11月22日「王であるキリスト祭日 初聖体」、12月24日「主の降誕」に用いられます。

☞その他今年購入したストラは、【写真-2】紫色ストラ、【写真-3】はアルバと緑色ストラです。

典礼メモ

ミサ時に使用する祭服色について、見て見ましょう。（キリストと我等のミサより）

☞ 白色：復活祭と主の降誕節の聖務とミサにおいて用いられます。さらに、主の祝日と記念日、聖母マリア、天使、聖人の祝日と記念日に用いられます。

白色は、典礼において、心の純潔とキリスト教的喜びのしるしです。

* 横浜教区の典礼委員会からは、葬儀時の祭服色は第二バチカン公会議以降、「さらしていない色」＝白色と指導されております。

☞ 赤色：受難の主日と聖金曜日、聖霊降臨の祝日、主の受難の諸祝日、使徒および福音史家、そして殉教者の祝日に用いられます。

赤色は愛徳の炎と、殉教者の流された血のしるしです。

☞ 緑色：天の国への旅を照らすキリスト教的希望をあらわし、年中の季節の政務とミサに用いられます。

☞ 紫色：待降節と四旬節に用いられます。紫色は、キリストがわたしたちにすすめた苦行の必要性を思い起こします。



典礼こよみ（12月）



日	曜	ミサ・勉強会	備考
4	金	初金ミサ (10時)	掃除 1 G
5	土	主日ミサ (18時)	
6	日	待降節第2主日	主日ミサ (9時)
8	火	無原罪の聖マリア	祭日ミサ (10時)
12	土	共同回心式 (13時30分)	掃除 2 G (9時30分)
13	日	待降節第3主日	主日ミサ (9時)
19	土		掃除 3 G (9時30分)
20	日	待降節第4主日	主日ミサ (9時)
24	木	主の降誕祭	深夜ミサ (19時)
25	金	主の降誕祭	日中ミサ (10時)
26	土		掃除 4 G (9時30分)
27	日	聖家族の祝日	主日ミサ (9時)



平成 22 年度中和田教会委員会委員の立候補公募

—教会委員任期満了に伴う公募—

2009 年 11 月 15 日

本年も教会委員の改選に向けて、委員公募の時期になりました。
 教会運営規程に基づき、以下の立候補者を公募します。委員の交代を定期的に円滑に行うことは、健全な小教区運営の基本です。信徒各位の積極的なご参画をお願い申し上げます。
 また、いろいろな集まりで、役割の分ち合いや改選に関するお話し合いを宜しくお願い申し上げます。

■ 改選対象委員 (2010 年 1 月で任期満了、または既に任期を超えて留任中の委員)

- * 委員長 1 名
- * 副委員長 2 名 (注: 現在 1 名)
- * 財務委員 2 名
- * 宣教委員 1 名
- * 広報委員 1 名

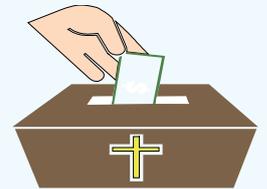
※ 2009 年 1 月に新任された、典礼、行事、福祉の各委員は、今回の改選の対象外です。

■ 公募締切

12 月 13 日 (日)

■ 立候補届出

「2010 年度教会委員立候補届出票」に記入の上、専用投函箱に入れて下さい



典礼グループ祭壇奉仕者他の募集について



中和田教会典礼グループでは、毎年この時期に祭壇奉仕者を募集しています。「祭壇奉仕者の募集表」(右の表)を聖堂入口に掲げましたので、大勢の方のご協力をお願いいたします。

先唱者	朗読	詩篇	共同祈禱		侍者		奉納	オルガン	準備係	花の係
			大人	要理	要理	要理				
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										

典礼メモ

1. 典礼とは何でしょうか

典礼という言葉は、日曜日に行なわれるミサのことだと言われています。

ミサの中では「全ての人の、救いのため神ご自身の奉仕があります」。そしてキリストの奉仕にこたえて、神の民が賛美し感謝の心をもって一つになって、神のために捧げる奉仕が、典礼であると言われております。

☆そのミサは「キリストの死と復活」を記念し、一年の中で最も重要視される典礼は「聖週間の典礼」と呼ばれ復活祭が祝われています。この聖週間のミサには大勢の祭壇奉仕者が必要とされて居ります。

この聖週間を囲む四旬節・復活節そして待降節と降誕節等、各祝祭日のミサ祭儀が行なわれている他、葬儀ミサや入信式・結婚式などが行なわれています。

2. 女性の方々にご協力頂きたいのは先唱者と侍者です

主日ミサの先唱は現在男性信徒にお願いしていますが、女性の方にも是非お願いしたいと思っております。

特に、葬儀ミサは緊急に行なわれますので、平日の場合は勤めなどの関係から苦慮しています。葬儀ミサに参列される方は未信者の方が多く、大勢の奉仕者の協力が必要になっています。

また、侍者についても、第二日曜日は、大人と子供達が協力しながらのミサを盛上げてくれています。大人の方・女性の方の侍者を募集しています。

☆このような事も言われています

教会の歴史の中で、ある時から祭壇奉仕者は男の役割とされて来ました。そこには、少年達がミサに積極的に参加し、司祭の召命を感じることができるようにとの配慮がありました。現在では、祭壇奉仕者は必ずしも男の奉仕ではありませんし、女性の方々にも、もちろん祭壇奉仕はできるようになっています。

委員会だより

△ 11月8日(日) 11名出席

報告・審議事項

(1) 湘南キリスト教セミナ

11/7(土) 盛会裏に終了。110名参加。例年の80%に比べ、出席率が高かった。

小林神父コメント 有意義な会を招くことができ、良い刺激になった。土足化で実施したことは、中和田教会の新しい方向にもなった。

(2) 委員の改選公募 ・・・ ルールは2年で交代で、行事、典礼、福祉Gを除き、改選。1月委員会で最終決定、信徒大会に報告。

(3) 七五三祝福ミサ(11/15) ・・・ 対象者は一人。祝福ミサは例年通り。

(4) クリスマス深夜ミサでの祝賀/分かち合い ・・・ クリスマスの深夜ミサの後の飲食のパーティーは実施しないことになったが、交わりを深めるための方策を検討する。

(5) 建物を考える会からの土足化の提案 ・・・ 土足化の試行は概ね好評。武田さんの御好意で門からスロープまでのコンクリート化を実施。現在ダスキンよりモップを試験的に借用。継続のための契約を結びたい。当面限定契約、信徒大会に諮って本格導入したい。またクリスマス前の大掃除で、床のワックスの塗り替え等も実施したい。

■各グループ連絡・報告事項
a. 財務G ・・・ 10/31現在で、一般会計 ・・・ 予算比8%プラスで推移建設会計 ・・・ バザー中止の30万円の差は、信徒会の積立額充当で賄う。愛の献金 ・・・ 予定どおり

来年度予算につき、各Gから希望を12月までに提出して欲しい。



b. 典礼G ・・・

典礼こよみ ・・・ 七五三、初聖体、共同回心式12/12(土)13:30。主の降誕深夜ミサで聖劇を19時開演。司祭年にあたり、12/6より閉祭の歌の前に司祭のための祈りを行う。

教会の運営規程につき、典礼、財務、広報で『中和田カトリック教会の皆様へ』(小冊子)を作る。前回典礼Gの討議結果を反映した案が説明され、次回議論。

c. 福祉G ・・・

今来られていない方一人に電話連絡した。毛布を集めている。バザー実施しておらず寄付の原資はないが、他の方法を検討。

d. 要理G ・・・

来週初聖体リハーサル ・・・ 聖劇19時スタート

e. 行事G ・・・

初聖体のお祝いはサロン形式にて。サロンのサポーターも。ベトナムの方々との交流を深めるためベトナム語の歌を歌う等も考えたい。他にも案があれば皆さんの意見を募りたい。一歩一歩進める。

小林神父要望 ・・・ クリスマスパティーは食事は無いが、イベントを含む1時間程度の集いを是非考えて欲しい。

f. 事務G ・・・

掃除当番表の登録用紙を用意した。男性の参加も欲しいので、ヨゼフ会の方でも登録して頂く。

g. 広報G ・・・

他教会から広報を送って頂いているので、こちらからも送る。

■小林神父からのお話

(1) 初聖体の段取りについて

成人式 ・・・ 対象者2名。ミサの日取りをどうするか、本人への呼びかけ、プレゼント等につき検討して欲しい。

委員会後記 小野委員長

11月7日に湘南キリスト教セミ

ナーが、フランシスコ会の中谷功神父様をお迎えして中和田教会で開催され、多方方面から110名の方々が参加されました。

中谷神父様は「イエスに出会う」山谷の寂しさ

と豊かさ」と題して、ご自身の四半世紀にわたる東京・山谷での活動体験をもとに講演をされ、山谷の歴史的背景、変遷、実情を説明された上で、ご自身が確信を持たれた事柄、またそれに至る過程をわかりやすくお話しして下さいました。

「奉仕する人」と「奉仕を受ける人」双方の心の襲、善意の落とし穴、そして「その人の存在そのものが祈り」となる究極の姿まで、多くの示唆に富んだ奥深いお話でした。

中谷神父様のご体験を、来場された多くの方々と、短時間ではありますがありますが、分かち合う機会を得たことを嬉しく思います。

セミナー開催に際して、大勢の中和田信徒の方々にご支援、ご出席を頂きまして、厚く御礼申し上げます。



11月15日には七五三祝福ミサが、

そして11月22日には初聖体

ミサが捧げられ、次世代を担う子どもたちが、神父様はじめ

参加した全信徒の祝福を受けました。特に初聖体については、長期間に亘って準備の勉強を続けて来た集大成でした。長い間、準備や指導にご尽力頂いた宣教グループ/教会学校の皆様、ご父兄の皆様、有難うございました。式典や祝賀を通して、子どもたちの晴れがましい表情が印象的でした。

